

「ひと・まち・きずなで 安全安心都市こうべを築く」



神戸市消防局長 嶋 秀 穂

神戸は六甲山、瀬戸内海の豊かな自然、エキゾチックな北野・旧居留地・南京町を有する都心、そして日本最古の有馬温泉や、灘の酒蔵など多種多様な観光資源を持つまちであるとともに、美しい景観の神戸港と神戸空港、2つの港を玄関とする魅力ある交流のまちでもあります。

また、ポートアイランドでは新しい薬の開発時間の短縮や地震や津波などの災害予測の精度向上、新車の開発時間の短縮など、様々な分野での利活用により、市民生活の向上に大きく貢献することが期待されているスーパーコンピュータ「京」が稼働しているほか、i p s細胞を活用した世界で初めての臨床研究がポートアイランドの医療産業都市で始まっています。

さて、先月1月17日に死者6,434人、負傷者43,792人、全壊及び半壊棟数249,180棟と甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災から20年目を迎えました。震災時や復興にあたっては多大なご支援をいただきありがとうございました。

震災以降は厳しい財政状況が続いていますが、間断ない行財政改革により危機を乗り越え、現在は昨年11月に第16代神戸市長に就任した久元市長のもと、輝ける未来創造都市の実現に向けて、神戸を「安定した成長軌道に乗せていく」ことを目指しています。

当局の取り組みとしては、まず、震災を知らない市民が4割を超え、街並みにも傷痕がほとんど見られなくなった今、震災の経験を風化させないよう、また、南海トラフ地震等の災害に対応するため、地域防災の中心的存在となる「防災福祉コミュニティ」の活動を推進することとしております。この「防災福祉コミュニティ」は震災を契機に地域の自治会や婦人会、老人クラブ、民生児童委員、青少年育成協議会、PTA、消防団、地域の事業所などで構成され、消防職員も担当制とし現在191地区（小学校区単位）で地域の防災活動などに取り組んでいます。

次に、今年は警防体制の再編など取り組んでおり、昨年は市内5か所に統括指揮者を配置し、大規模災害をはじめとした災害対応力の向上と安全管理面の充実を図りました。

このほか、水上消防署に消防隊を増隊し、中心市街地の対応強化を図るとともに、消防艇部隊を専任化し、沿岸と海上における災害対応力の向上を図りました。

さらに、平成5年度から応急手当の普及啓発のために、年間3万人を養成することを目標に、市民救命士の養成に取り組んできたところですが、昨年7月に養成者数が記念すべき50万人に達しました。

これら神戸の安全・安心への取り組みは「神戸消防グランドデザイン2025」（「神戸市消防基本計画」の第一部として2025年度までの計画を策定）に基づき推進しているところであり、「ひと・まち・きずなで安全安心都市こうべを築きます」を基本理念としています。

そして、この基本理念を踏まえて、消防行政に対する市民ニーズや社会経済状況の変化を的確に捉え、消防行政が直面する様々な課題に適切に対応してまいりたいと考えています。